

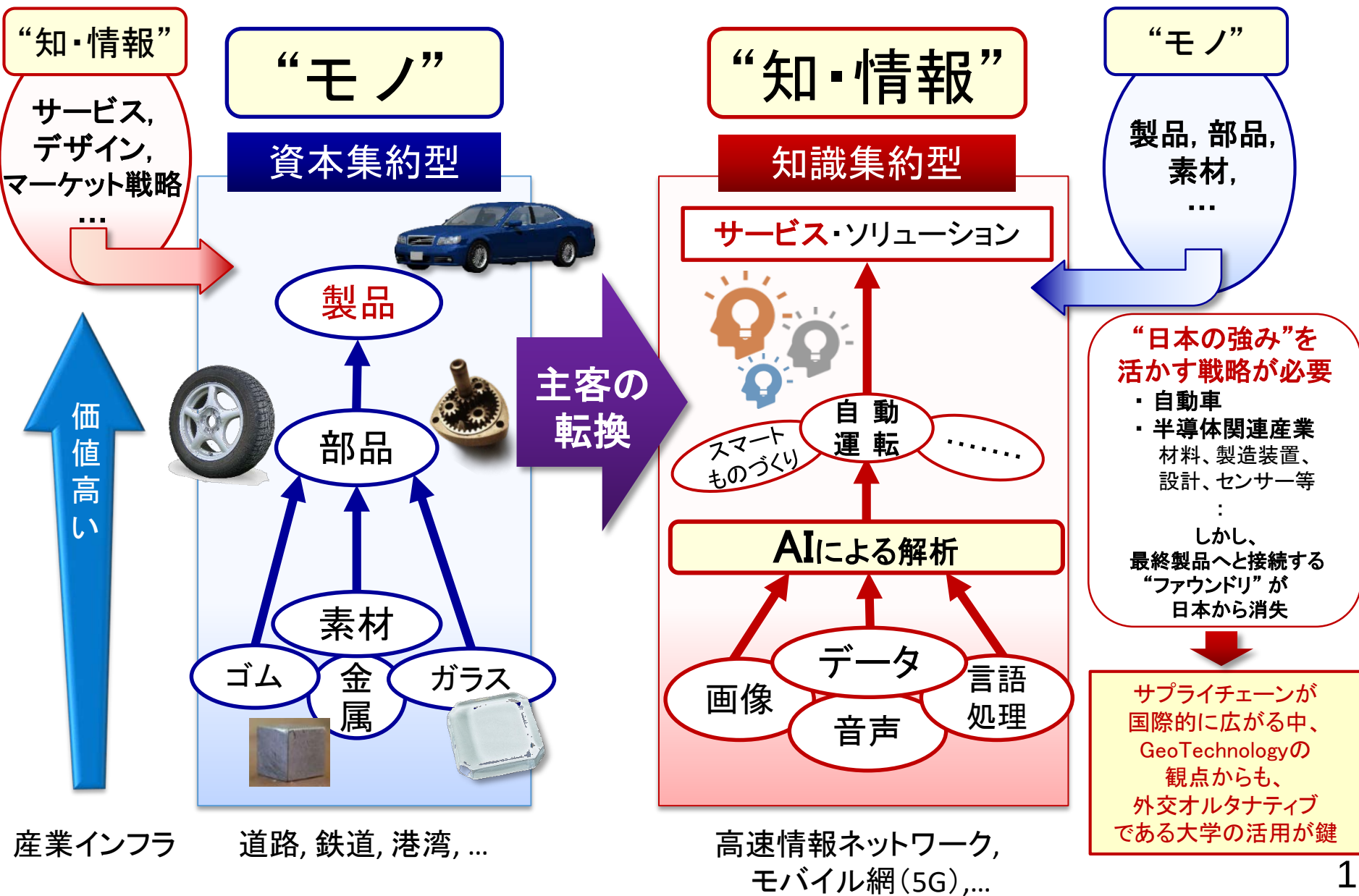
第6期科学技術基本計画についての意見

東京大学総長
五神 真

- 日本は、第5期科学技術基本計画において、Society5.0を世界に先がけて提言した。これは、デジタル革新によってデータを介してサイバー空間と実空間が高度に融合する中で、経済社会が不連続にパラダイムシフトし、価値が従来のモノから無形の知識、情報、サービスへとシフトし、資本集約型から知識集約型へと転換する中で、結果としてインクルーシブなより良い社会が実現するというビジョンである。
- 第6期の完了年となる2025年には、団塊の世代が後期高齢者となるが、それまでには、日本でこのパラダイムシフトが完了し、様々な格差が縮小された「包摂的な社会」すなわち、「インクルーシブな社会」が実現していなければならない。
世界情勢が激変する中で、日本には追い風が吹いており、日本が先導できるチャンスがある。その為に、2025年までの限られた期間に、既存の延長線でない発想力と意志を持って取り組むべきである。
- その転換において、活用しうる、人的・物的資源の大半は現有の既存資源であり、それらを最大限活用する方策こそが、第6期の短期戦略の要諦である。
地方の活用、全世代参加促進、未来へのリスク投資を広げる資金循環システムの改革、大学の機能拡張、教育システム改革、世界から人材資源を日本に引き込む諸施策など、あらゆる施策を総動員して、全世代の人材が変革に貢献できるようにするための力強いメッセージを基本計画に書き込む必要がある。
- 同時に、ポストSDGsやパリ協定などを視野にいたした2050年に向けた長期戦略を示すことも重要である。具体的には世界の諸課題解決への日本の積極的関与、次世代人材の育成、量子技術の先導、国際的な大型基礎研究の推進、インフォマティックスの基礎研究など、現在の日本が置かれた地政学的な立場を優位性として活用しながら、短期と長期の二つのタイムスケールでの戦略をパラレルに進める必要がある。
- Society5.0では、知・情報・データが価値の源泉となる。その為にデータを集め、加工し活用できる人材が集まる大学や研究機関に対しては、異次元の規模で先行投資を行う必要がある。短期と長期戦略への投資比率は例えば7対3といった形で具体的に示す必要がある。その原資としては、国費による直接投資だけでは全く不十分である。これまでの経済政策によって民間に生み出された膨大な資金や官民の保有資産を短期・長期ともに活用するべきである。眠っている膨大な金融資産※を動かし、新しい資金循環を生み出すための具体的な施策を考案し、政府の本気度を示すことが重要である。

※日銀の資金循環統計によると、家計の金融資産は1829兆円（2018年3月末）。その半分超（959兆円）が現金・預金。民間非金融法人企業が保有する現預金も263兆円に上る。また、財務省法人企業統計調査によると、企業の内部留保は446兆円（2018年3月末）。
- 未来投資会議の「成長戦略実行計画 2019」において、「大学は、知識集約型社会における価値創出の源泉となる多様な知を有しており、大学の役割を拡張し、変革の原動力として活用する」と規定された。今後、民間企業だけでなく、大学も変革に貢献する多様なリスク投資の受け皿となれるような制度整備が必要である。

知識集約型社会へのパラダイムシフトのイメージ



より良い社会を勝ち取るには：大学の活用

経済メカニズムをどう回すか
未来への投資に向けた資金循環を創る



(国連、2006年)

投資家

健全な投資



ESG投資

環境 (Environment)
社会 (Social)
ガバナンス
(Governance)

家計の金融資産
1829兆円(2018)
企業の内部留保
446兆円(2018)

課題解決

ベンチャー



リスクマネー

産学協創

大企業

共通価値の創造
CSRからCSVへ



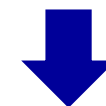
SDGs

企業行動憲章
(経団連、2017年)



より良い未来社会

社会・経済の価値の
ベースは人の行動



人文知

社会システム

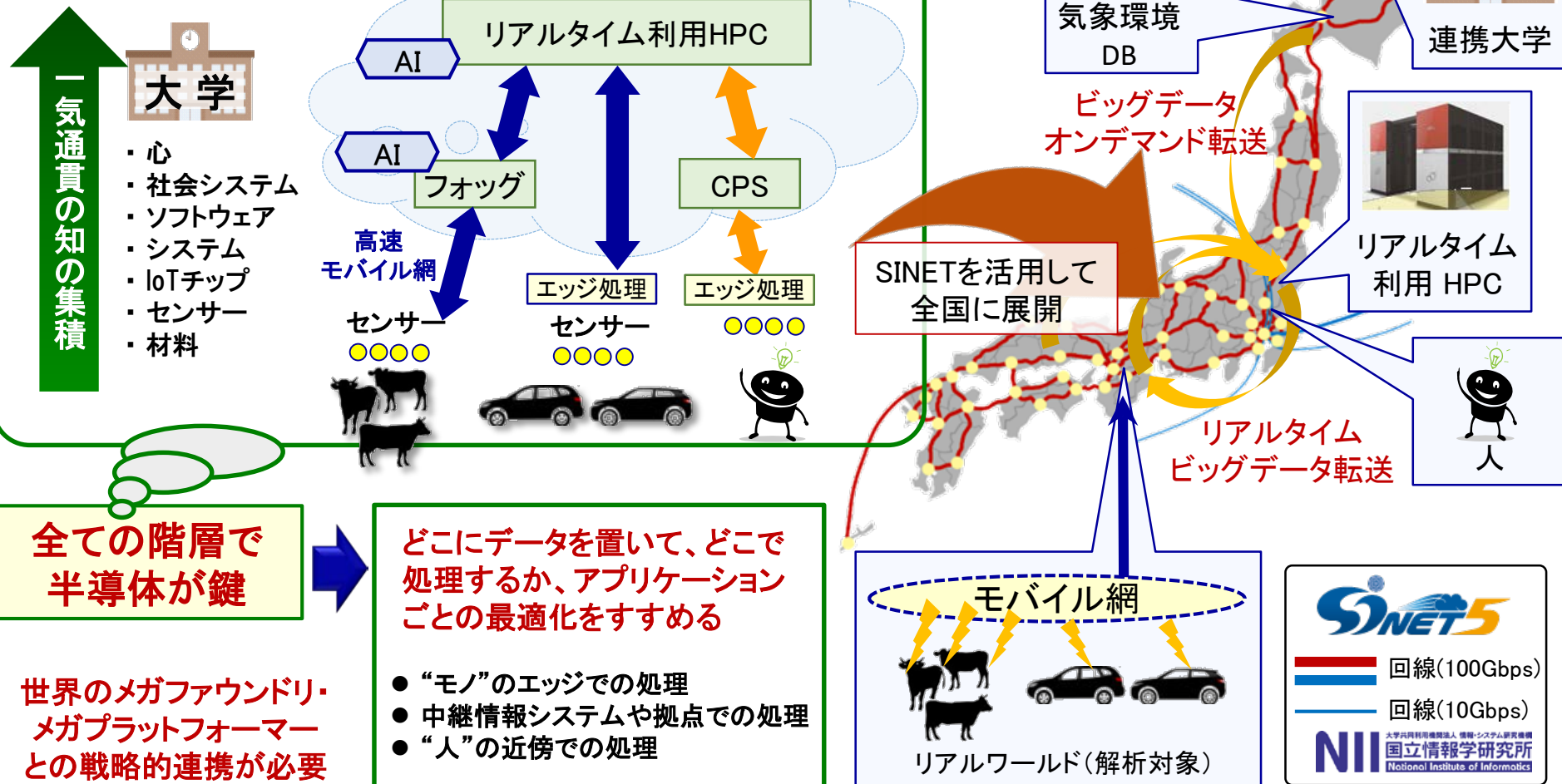
経済メカニズム

科学技術
イノベーション



知識集約型社会の重要なインフラ: 大学とSINETの活用

データ駆動型社会を見据え、大学の持つ一貫通貫の知の集積を活用し、世界に広がるバリューチェーンをグリッパする



大学の知識産業化、Society5.0 への転換加速

大学のミッション再々定義で明るい未来へ

20世紀・・・成長のロードマップが明確

(労働集約から資本集約への移行、工業化)

価値は“モノ”

大学は人材を社会に送り出す発射台



21世紀・・・ビジョンを競う時代

価値・商品は“データ”, “知・情報”

課題ドリブンの価値創出

大学は社会変革を駆動し、Goodシナリオに導く



- ① 経済循環の仕組みを作る
- ② Society 5.0 時代の商品の創出・流通インフラを支える (SINET 5)
- ③ 未来社会を先導するグローバル戦略

人材育成 + 全世代の協創の場

「大学は、知識集約型社会における付加価値の源泉となる多様な知を有しており、大学の役割を拡張し、変革の原動力として活用する」

「成長戦略実行計画」(2019.6 閣議決定)

国立大学は産業・社会基盤を支える柱となる
社会が期待している今がチャンス！